

後期選抜

2020.3.24

本日、3月24日（火）は初めての「後期選抜」が行われる日である。本校は、前期選抜の合格者が募集定員を下回ったために後期選抜を実施する。

本校の場合、選抜のための資料となるものは、「調査書」「面接」「作文」の3つである。面接における前期選抜との大きな違いは、「中学校における学習活動の成果を問う内容（数学、英語）」を含む点である。作文は、あるテーマについて、400字以内で志願者自身の体験等に即して思いや感想を述べる作文となっている。

後期選抜を実施する高校の一覧を見てみると、随分と多いと感じざるを得ない。中学3年生の数と各高校の募集定員とにズレが生じているのかもしれない。やはり、高校の統合は避けて通れない課題なのだと再認識させられる。

高校受験の場合、この時期になると、県立高校の後期選抜か私立高校の再募集となる。第1志望校の受験ではないので、志望動機や目的意識が弱いのは仕方がない。面接等で確認したいのは、その高校に入ってから、どのくらい頑張る気持ちがあるかどうかだろう。いわゆる不本意入学になるのかもしれないが、それでも3年間で努力をするのだという決意がほしいところである。

とはいっても、前期選抜の合格者発表からまだ一週間あまりである。気持ちを切り替えろと言われても難しいのは当然である。

昔、私が勤務していた学校に、この時期に私立高校の再募集を受験し、高校に入学した生徒がいた。その生徒は、さぞや悔しかったことと思う。だが、心に期するものがあつたに違いない。まさしく「捲土重来（けんどうちょうらい）」である。捲土重来とは、一度敗れたり失敗したりした者が、再び勢いを盛り返して巻き返すことである。

その生徒は、3年間じっと努力を重ね、一流大学と言われる大学に進学した。3年間の苦勞が報われた。人間何が幸いするかはわからない。大事なことは“腐らない”ことである。今、自分が置かれた場所でベストを尽くすことである。そうすることで、道が開かれる。

思うに、人が成長していく過程においては、捲土重来の期間が必要なのではなかろうか。これは受験に限ったことではない。「今に見ているよ」という気持ち、「今度こそは」という気持ちなどは大切なものである。これらをバネにして大きな成果を出した人は枚挙にいとまがない。

県立高校の後期選抜は、腐らず、ぐっと心に秘めたものを持ちながら、今できるだけ全力を出して試験に臨むことが肝要である。本校の志願者もそうあってほしいと願う。各高校の志願者は、後がない、崖っぷちの状態を受験する。本校では、作文と面接を実施するが、その緊張の度合いはいかばかりかと思う。他の高校の受験生も同じであろう。緊張しながらも、今できることを精一杯やってほしい。そして、栄冠を勝ち取り、人生において大切な3年間を過ごしてほしい。後期選抜の受験生一人一人の健闘を祈る。